

主審の試合進行要領

試合の前に：試合開始の30分前までに選手及び監督は集合します。前の試合の流れにもよりますが開始が早くなる場合があります。本部が両チームの全員が揃っている事を確認することが前提です。対外試合トーナメントでは集合に間に合わなかったとかメンバー表の提出が遅くなると監督がベンチに入れないなど罰則がありますが、甲北連盟ではその罰則はありません。本部より各チームのキャプテンに集合の合図がありキャプテンはメンバー表と試合球2個を持って集まりジャンケンなどにより先攻・後攻を決めます。連盟のA/B対決ではBが先攻となります。ベンチは若番が一塁側となります、番号はシーズンに先立ち決まります。試合開始の20分ほど前からシートノックを開始しますが、後攻チームから5分間やります。

1. グラウンドの整備

両チームの守備練習後（守備練習は後攻、先攻順、各5分）、本部と協力してホームベース付近の整備（ブラッシング、バッターボックスのライン引き直し等）を行う。内野の整備は塁審が行う

2. 選手の集合

両チームの全選手がベンチ前に整列しているか、審判が全員揃っているかを確認した上で「集合」の掛け声で、選手とともにホームベース前に駆け寄る。

両チームがホームベースを挟んで整列できているか確認をする。

試合開始の宣言、注意事項を確認、キャプテン握手、の指示。

「対XXの試合始めます」

「攻守交代は走って早くしましょう」

「キャプテン握手」礼」

3. 試合中の留意点

投球練習は初回及び投手交代時は7球、他は4球（大会によっては5球、3球のときがあるので、事前に本部に確認しておく）

試合開始は右手を上げて「プレーボール」を宣告する。

試合が止まっている状態からインプレイになる時*に右手をあげて「プレイ」を宣告する。

* ファールボール、デッドボール、バーク、タイムの後（ホワーボールはインプレイ）

ストライクとボールの判定

・ ストライクは右手を上げて「ストライク」と大きな声でコールする。三振のときは「ストライクスリー」とコール（バッターアウトはコールしない）

・ ボールはコールしなくても良い

ホワーボール・デッドボールは左手で指示する

ファールボールは、選手がボールを捕るまで宣告しない。ただしデッドラインを超えた時は

直ちに宣告する。宣告は両手を上げて「ファールボール」

- * 一塁あるいは三塁へのファール気味のゴロでも「フェア」と宣告し、バッターを走れせる。その後野手がファール地域でボールを捕った時点で「ファールボール」と宣告しなおす。その際、ボール転がった方向に体を向けフェア、ファールの判定をする
- 内野フライのアウト宣告及び内野におけるファールの宣告は球審が行う
- ホームベースでのクロスプレーのセーフ、アウトの判定は捕手の真後ろで行わない。かならず左右に回り込んで判定する。

4. 試合終了の宣言

ゲームセット、集合」で選手を集合させる。

キャプテン握手」礼」

- * コールドゲームは4回で10点差、5回では7点差

5. その他

少年野球ではインフィールドフライを宣告することはまれ。

振り逃げ

無死または一死で走者は一塁にいない時、または一塁に走者がいても二死の時振り逃げをすることができる。